

## 【公演開催における Hakuju モデル】

監修：湘南鎌倉総合病院 院長代行 医学博士 小林修三

### Hakuju Hall の対応

- ・スタッフは毎回検温し、健康状態を確認した上で業務にあたります。
- ・手洗い・うがい、アルコール消毒、マスクを着用し、感染予防対策を実施いたします。
- ・Hakuju Hall 内は、換気システムにより適切に換気しております。
- ・施設内（手摺やドアノブ、カウンターなど）はアルコール消毒を施しております。
- ・1F・7F のカウンターは、飛沫防止シールドを設置いたします。

### 主催者・出演者の皆様へ

- ・入館時の手洗い・アルコール消毒・検温・マスク着用をお願いします。
- ・GP におけるマスク着用（演奏内容によって可能な場合）
- ・GP 終了時、退館時の楽屋・使用物のアルコール消毒にご協力ください。
- ・ごみは全てお持ち帰りください。
- ・備品（アイロン・アイロン台、ドライヤーなど）使用の際も、手指のアルコール消毒をした上、ご利用ください。
- ・GP・公演終了時は舞台上の清掃にご協力ください。

### ご来場のお客様へ

#### 【入場について】

- ・原則として、ホール館内ではマスクを着用し、咳エチケットによる感染予防をお願いいたします。なお、マスク着用のない方のご入場は、かたくお断りいたします。
- ・入館の際は、必ずアルコール消毒をお願いいたします。
- ・ご来場されるお客様の分散を促すため、開場時間を 45 分間といたします。
- ・エントランスに入る際は、自動扉からお願いいたします。（回転扉は使用できません）
- ・1F 待合スペースでの飲食はご遠慮ください。
- ・1F（約 55 m<sup>2</sup>）に滞留する人数は、25 名までとさせていただきますので、外でお待ちいただく場合がございますが予めご了承ください。
- ・移動の際は、約 1m の距離を保ってください。
- ・ご入場の際、ご整列いただいた状態で、非接触型の検温を実施させていただきます。その際、体温の高い方（37,5 度以上目安）は、ご入場をお断りいたします。
- ・エレベーターでの 1 回の移動は、（2 基：定員 4 名・6 名）とし、合計 10 名迄とさせていただきます。
- ・エレベーターのボタン操作はスタッフが行いますので、お客様はお手を触れないようお願いいたします。

## 【開場中】

- ・チケットは目視で確認させていただきますが、半券の回収が必要な場合は、お客様ご自身でもぎっていただき、箱にお入れください。
- ・プログラム配布がある場合は、アルコール消毒をした上で、お客様ご自身でお取りください。
- ・ご入場の際は、距離を保って客席内にお入りください。
- ・クロークでは、お荷物・お召し物のお預かりは原則としていたしませんので、予めご了承ください。
- ・ブランケットのお貸出は当面いたしません。
- ・出演者への花束・プレゼントはご遠慮ください。ご持参いただいてもお渡しいたしかねます。
- ・バーコーナーは当面営業をお休みさせていただきます。

## 【開演中】

- ・マスクの着用及び咳エチケットによる感染予防をお願いいたします。
- ・ブラボーなどの声掛けはご遠慮ください。
- ・ソーシャルディスタンスを保つ為、指定されたお席にお座りください。
- ・遅れて到着された場合は、スタッフの指示によりご着席をお待ちいただく場合がございます。

## 【休憩中】

- ・休憩に入りましたら、アナウンスで列ごとにお手洗いをご案内させていただきます。ご案内があるまでお席でお待ちください。
- ・お手洗いを使用される場合、目印に沿ってお並びください。
- ・ホワイエでお過ごしの場合は、お客様同士の距離を保ち、大声での会話は避けていただきますようお願いいたします。
- ・通常の換気システムに加え、客席の扉を全て開けて換気いたします。

## 【終演時】

- ・終演の際は、アナウンスで列ごとにご退館のご案内をさせていただきます。ご案内があるまで、お席でお待ち下さい。
- ・握手会・サイン会・面会はありません。
- ・エレベーター・階段を使用し、適切な距離を保ってご退館ください。(エレベーター2基：定員4名・6名=合計10名迄)

※この Hakuju モデルは 2020/6/1 現在のものであり、今後の状況によっては変更の可能性があります。

## Hakuju モデル監修にあたり

新型コロナウイルス感染では接触・飛沫感染がより重要な役割を持っています(ウイルスは咳・唾液などの体液に存在し、持ったもの、例えば手すりやノブ・ボタン、ペーパー、そしてエアロゾルとして空中から落下して床に存在するウイルスなどに対する対策が含まれます)。

感染しても症状がない、いわゆる「不顕性感染者」として本人も周囲も知らぬうち、この方々から感染が広がり、中には発症する方(症状が出る)がおられます。幸い、死亡率は人口100万人で考えますと欧米人とは異なり約3桁違いの極めて低い7人と発表されています。今後は、自然感染により、またワクチン接種も含め徐々にウイルスを攻撃する抗体(善玉)が体内に出現し終焉に向かっていくと考えられています。こうした時期が訪れるまで、今しばらくの間は、当ホールからのクラスター発生など感染防御の観点から、以下の様な対策にご理解ご協力をお願い申し上げます。

何より、音楽・芸術・笑いなどは、皆さまの身体が日頃から持っているNK細胞(善玉)など自然免疫の力をアップすることができるという報告が、多くの医学論文で語られています。一律に全てを中止するのではなく、限界があるものの、可能な範囲で医学的見地から考えた、より良い対策をしっかりとった上での演奏会をお楽しみください。今一度、重要な点を述べます。咳は当然として、あとは皆様の「手」です。手であちこちを触らないことです。触ったら手洗いするまでその手には注意が必要です。さらに、その手を顔に持っていないことです。ウイルスのいる体液・モノから手に、そして口周り(口・鼻・目)から体内に入ります。しっかりと自然免疫があり、そして抗体が獲得できた場合には例え感染しても疾病の発生には至りません。至っても軽症ですみます。むやみに恐れず、正しく理解していただきたいと思えます。

湘南鎌倉総合病院 院長代行  
医学博士 小林修三

## プロフィール

### 小林修三 医学博士 湘南鎌倉総合病院院長代行

日本内科学会評議員（関東地区常任幹事）、日本腎臓学会評議員、日本高血圧学会評議員、日本フットケア・足病医学会元理事長（現在理事）、日本医工学治療学会理事、急性血液浄化学会理事、など学会役員・指導医・専門医の資格多数。

また、多くの学術論文を始めとしてアメリカ・ヨーロッパ・アジア各国・中国・モンゴルなど外国での学術講演を多数行う一方、NPO 法人「癒しの医療を考える会」理事長として開かれた医療を目指し一般向け医療講演も積極的に行なっている。

2008年にはアフリカ・モザンビークでの初の人工透析医療・2018年にはタンザニアでの初の腎移植を現地に赴いて指導し成功に導いた。

2002年より2010年まで山田和樹指揮、以降は瀬山智博・中田延亮指揮の湘南鎌倉フィルハーモニック管弦楽団演奏会にて「作曲家とその病」について解説し好評を博してきた。自身もクラリネットを演奏するほか、日本管打楽器コンクールにて特別審査員もおこなう。一般向け著書に「間違いだらけの病院選び」（PHP新書）、「ベートーベン・ブラームス・モーツァルト その音楽と病」（医薬ジャーナル）、「フットケアで寿命を延ばす」（PHP エディターズ・グループ）がある。2017年より昭和音楽大学客員教授、2018年より横浜市立大学医学部客員教授。